

研究・調査報告書

報告書番号	担当
271	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Underage drinking: a call to action. 未成年者の飲酒について行動への呼びかけ	
執筆者	
Moritsugu KP.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Am Diet Assoc. 2007 Sep;107(9):1464.	
キーワード	
アルコール、未成年、公衆衛生、政策	
要 旨	
<p>2005年のNational Survey on Drug Use and Healthによるとアメリカにはおよそ1100万人の未成年飲酒者がいるとされる。また、10代の飲酒も増えている。14歳の20%近くが飲酒経験があると答えている。このようにアメリカの若者の間で広くアルコールが乱用されている。</p> <p>このような問題に対し注意を喚起し、未成年者の飲酒への態度を改め、このような土壌を改めるべきである。多くの親が子の飲酒量を過小評価したり、子の飲酒を否定するが、15歳までに少年・少女の約半数が飲酒しており、18歳から20歳の年齢層が最も飲酒率が高いのである。</p> <p>この公衆衛生学上の問題の解決は、未成年者が飲酒することへの態度や少年たちが置かれた深刻な状況を家族、社会全体で認識し、自問することから始まる。</p> <p>公衆衛生総局長(Surgeon General)は未成年者の飲酒を抑制するため、次の6項目の行動の呼びかけを行っている。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ①健康な少年の発達を促し未成年者の飲酒を防ぐ社会へと転換する ②親、学校、地域、全ての行政府、若者に関わる全ての社会システム、そして少年たち自身が連携して未成年者の飲酒を防ぐよう努める ③個人の性別、文化、民族などの環境に配慮しながら発達成長していく未成年者の飲酒について理解を深める ④未成年者の飲酒の状況とそれが成長とどのように関係しているのかさらに調べる ⑤未成年者の飲酒、人口集団における飲酒行動への危険因子に係る調査をよりよいものにする ⑥全てのレベルで未成年者の飲酒を減らし予防する政策を一致させ確実にする 	